

森・動産鑑定会長を  
部課店長会議に招く

福井信金

【金沢】福井信用金庫(福井県、橋詰國行理事長)は11月15日、本店で開いた部課店長会議に日本銀行出身でNPO法人・日本動産鑑定会長の森俊彦会長を講師に招いた。橋詰理事長をはじめ役員約80人が聴講した。

講義テーマである「顧客目線の地域金融」を現場レベルで高めるため企画。森会長は、中小企業経営者のメインバンクとの取引

に関する生の声を紹介。企業の経営課題に寄り添った提案を怠る「レイジー・バンク」が全国に存在すると指摘した。

経営者との対話には「ローカルベンチマークの活用が有効」と説き、地域金融機関が実践している具体例も紹介。金融庁の行政方針に含まれる「共通価値の創造」については「金融機関側からの提案によって顧客のキャッシュフローを改善できれば、利ざやが厚くなり、金融機関のメリットにもなる」と強調した。